

大明律例譯義

首卷

6038
H-1



門 保 4
號 6038
卷 1-14

大明律例 詳 義 善 書 卷
律 例 大 意
一 律 例 之 常 理 法 例 一 編 下 律 例 法 例 之 上
二 律 例 之 常 理 法 例 一 編 下 律 例 法 例 之 上
三 律 例 之 常 理 法 例 一 編 下 律 例 法 例 之 上
四 律 例 之 常 理 法 例 一 編 下 律 例 法 例 之 上
五 律 例 之 常 理 法 例 一 編 下 律 例 法 例 之 上
六 律 例 之 常 理 法 例 一 編 下 律 例 法 例 之 上
七 律 例 之 常 理 法 例 一 編 下 律 例 法 例 之 上
八 律 例 之 常 理 法 例 一 編 下 律 例 法 例 之 上
九 律 例 之 常 理 法 例 一 編 下 律 例 法 例 之 上
十 律 例 之 常 理 法 例 一 編 下 律 例 法 例 之 上



大明律例譯義首卷

律大意



一 魏の李悝法經六編と云ふ漢蕭何と云ふ
 二 編法に九章と云ふ此後世律と云ふ者皆
 其之宗と云ふ其後劉邵漢律と云ふ魏律と云ふ
 賈充魏律と云ふ晋律と云ふ唐長孫無忌漢
 魏晋の律法聚め其内の^{アツ}毎の者^イを定めて
 十二篇と云ふ名例と名例と終此唐律
 明洪武六年刑部尚書劉惟謙^イに詔して
 重^イ諸律の誤^イを正し中道^イに叶^イふに
 近代比附の繁^イを裁^イの實^イを出入^イの^イ以後^イ
 少^イを裁^イの^イ痛^イく^イ革^イめ^イと^イ用^イひ^イと^イ一^イ篇^イ案^イす^イに
 と^イ序^イと^イ獻^イ上^イと^イ律^イ例^イ不^イ供^イ不^イ可^イと^イ其^イ時^イ聖^イ祖

自身は御筆を以て其より思ふて於て録すに
定免流人明年に書成就と篇目唐の律書準し
或は取或は捨或は置かざるありたりた努めて慎重
あり且合しむるを吏部礼部刑部工部の六類に
分ち十八篇を折して二十九篇に如し六百六箇條を
約して四百六十と名を唐律と沿ひしと云ふ
皆時と同じく法を立て情を徹し刑を立の上を天
理と指す中一時宜ふは人の情を合ふ可せし準
繩城を以て百王の憲度あり法律ありくよく保
す此律の如し者ありは上は六部に分ち
各自分ちりて天下の事事に供へ朝廷の法典
と該大物ありありありと云ふ文系と云ふ故此比附
と云ふ不及は一は律の體ありて吏の如くと云ふ

事を知り煩多故憲を事以て民を導く者も避る
事代知て法を犯す事あり誠は一代の良法
子孫永く遵ひ守るべき者也大學衍義補丘瓊山語
一明太祖曰律令者天下成法の法なり其内令は
前方に教へく善しむるは律を後小懲り高
台よりすむ古昔は律令至る簡約なり後世は
至て箇條多かりく何事代りてんは義も通
ずる事と云ふぬ法より人法は人の法は
法と云ふは罪代犯す事ありてんは思ふ
うと濟くは民律の法と云ふは吏私と云
民と罪と隔る事と云ふ不便なる事也吏部大
明律大明令を定むるは繁文と云ふは施す事
少く約ありて一は律を以て

何れも知せぬして重く罪を犯したる時は誅伐
せらるる處より一箇ものあり好むとせんや
罪ふしむけり時よ我をゆるせよと罪よ入たく
思ふと犯らざんは律よりいふと人犯と思ふと
大衆の者なりともしらふとるる處の律は
川や河に法を極むる事とする事多し
昔や同刑官の仕形は皆内介月日役の者よく
よくに吟味せざるも也下民を失ふて罪を重
心中不平の氣上天地は和氣を干し下は旱
大水出る處の種よくは事のむかひは法
より月日役の官吏も天は責成のる處なり
律例箋叙自序

一 正月朔日ハ法度原日一國一城一戸一田舎

もくに領りさうと右の箇條書と東の象魏門は
然重く民を示し其城を知らしめ其徳を
十日ありてうり歛る也 周禮
一 王昭禹曰先王の法は江河の如くはけやと
く犯りては若かくは重くは民を以て法を犯
事ありし時よりと罪よりはたさくは事の
あつたやよ罪を張重くは教とて教も
周禮の法は象魏門は然て民を見せし
むるものも民は法を以て知りて罪を犯すもの
なればなりと云ふなり 大學衍義補
一 丘瓊山曰周禮の法は象魏門はかくは意は
惟民の志は以て犯す罪よりは事なりと
もさうなり法を以て設るは民の避るる

犯す可し然るにのこしこの後たり然るに後人
も前より後へ世付たも後人より去り去り
のこしいんや之の細民やいんやも周廟
の朝廷の法度より事九地の下より九天
より上へんや
上は之をばはらちる事
之よりゆき罪を犯す事めきこし刑は
刑の事ハ多ク罪アリスなる事ハ夫を周禮より正月
の吉に法を家範アリスに小懲り大戒を示すの嫌
てさしめたる事と告して大のこたす事
あしむる事嫌てたる事めきこし
かしの意ぬら同上

漢文帝十三年今故ト曰蓋固有虞氏の時代
小罪のりやのやは衣冠盡く衣裳を別り

一しても者としていりしめし民懲り罪を犯す事如
今の法より黜ケルは罰を斬カスは刑の二等は肉
刑ありしと民の罪を犯す者ハ其答はつと
り多しと今も罪を犯す者ハ其答はつと
徳薄くして中代教ふ事ハ明らるる事ハ朕
甚愧安んず事ハ必竟民を教ふ道ハ
小のりて民のわたりと罪ハ臨ふ事ハ詩経
は愷悌の君子民の父母とありし今人過アリスり
教を以てに施さるる事ハ刑罰を
加ふ其人心の中に後悔なく向後行跡をため
吾人より命んや事ハ其すくに鼻をさす事
を斬ると黜せしむる後より事ハ其すくに鼻
誠は不便なる事ハ刑罰ハ幾等ハありし

人の五體を以て皮膚を刻く一事を以て其の
有るは取之し其を以て其の罪を以て其の
不徳の致しむるは民の父母を以て其の
此の書の本を以て其の肉刑を以て其の
同上

丘瓊山曰後世言法者以刑を以て其の
刻じ事と云ふは文帝の徳大なり
すも事と云ふは文帝の徳大なり

一 康誥曰囚の罪を断じしむるも事の干要なる
不しと云ふは考ふ事也一日十日を以て
刑を以て其の罪を以て其の罪を以て其の
一 唐太宗詔曰一度死しむる者後いしむるは

書経

然らば大切の事なり其の死罪を以て其の
又詔曰暫時の内は其の罪を以て其の
今未だ其の事なり其の罪を以て其の
又文を以て其の罪を以て其の
御膳も酒肉を以て其の罪を以て其の
一 凡そ囚を以て其の罪を以て其の
杖或は笞を以て其の罪を以て其の
書と云ふは其の罪を以て其の

唐書

屍骸を叙して蘇ふ事のかたがたにせしむ。唐書

一唐太宗英武を以て英武人よし隋を亡し

天下を定むるは仁恕を以て仁恕を以て治す

然るに即位の初は威刑を以て天下の人を治す

とて治すに治す人として治すに治す人として

魏徴より言ふ事とて言ひ奉りていふ

王政は仁恩を以て治すの意を以て治す

厚くすま事を專とすこととて言ひ奉りていふ

事以て治すこととて言ひ治すこととて言ひ奉りていふ

天下を治め治す人をも刑罰の事に念入る

史記に帝位の四年めふは天下に死罪より治す

者治す二十九人ありて也六年に自ら死罪より治す

味し治す一死罪より治す一人ありて也百九十人あり

一みりて宋不便小思ひ治す今夜先事とていふ

ふと宋年秋より治す事とて言ひ奉りていふ

治す一其内を先治す事とて言ひ奉りていふ

治す一治す一人ありて也治す一人ありて也

とて言ひ奉りていふ治す一人ありて也

一とて言ひ奉りていふ治す一人ありて也

治す群臣を以て治す日吾治一歳の内は二度大赦

治す好人の口を以て治す唾子の口を以て治す

いふ事我天下を治す事とて言ひ奉りていふ

民を治す事とて言ひ奉りていふ又の事とて言ひ奉りていふ

何んぞ世を治すたの事とて言ひ奉りていふ

唐書

一宋孝宗時臣僚上言して曰凡世律法のの衆て

拷問より罪犯ハ告一出めら詞状メヤスよのよめら通
りて交りりて実吾と吟味しる身一めりて其
外は他の悪事とせしむる同出と事一とけ
りたる次人ありてめり人せしむ者告いしは此
どのに禁律若相有く者人の罪を故入る律と
以て論と然らば此を告状の外は律の罪と
めら一さうと推尋候其者平生の事とせん
しは一と一悪事と吟味しむるもさう他
人へもかへし脱に人さう一と事入らや一は
うと律の文と相有けて急度法令と申し月めり
告状の外小罪を求る事とせさうに作也
お前々昔々罪小生とく一トカニ大学衍義補
一拷問より罪人トカニと極悪大共の者めり民の恨と

悪む刑の者ふあどん強くむむに拷問より
肌膚小かゝるもされいむら同一事とれん
小用捨すへし事とり律例箋釈
一罪を犯し一牢に入らばも者自らめり罪不
伏し白状書めり無失もさし脱後と書せ死
罪より引い法と正し一極重し然らば罪不引
らり内ふらけりては拷問方とありて病時ふら茶を
めり麦の牢れ肉の水と抄掃除し一瘡病はめり
やうめり冬ははれ補しやうふりて是字ふりら
やうもはさるも上は罪者さうして死罪より引
者なりとも事と知さるらり一法まらりて不便
たも事有よかく憐しを如く候事とり同上
一牢の圍り内ふ別は病人診候と一間を在正キレイ疫令

補命く天下と母七ん事以汁は、も事人情よ
なりともと事一以、人の情長生を誦くともあそ
三王世凡情ふおて生し、あ場やういん人情富と
新しんとも事一を、三王よの情ふおて民のく
の厚く因窮せぬやうに人の情おらけく母なる
事以新しとも事一を、三王其情は厚く、道は
披て危きりなればやうあそ人の情果と新しとも
半ゆ、三王世の情ふおとゆきくは、ひとも力
と節く用て情力けわうたあ使く事一を、其
法度疏冷し人の情ふく合、海は新し人吏
故又勢はくけとあそ人事に年さく心
やわく人のよと思ひやう事一を、あそ人情
の思ひま人のよとあそ人情の新しとも事

そくれく禁とも事一を、先以天下其政を果と
其徳は帰朕く、作の言く、父母のく、後て
思ひはく事流水のく、
前漢書

一董仲舒曰王者のよは、其徳は天よ求む
天道の大かり、陰陽の二氣よとく、陽は徳を、
陰は刑を、刑を殺す事よとく、徳を生む事よと
主る是を、天より陽氣よは、夏に居て物と生育
長養し、陰は冬におわく、空虚毎用の地よ
おく、水よは、天よ徳よ任く、刑よ任せ、か
事一を、天陽は、あよ命よ施さく、
年中の物成、就く功のた、陰は、
下よ伏し、時よ出く、陽は、
是天の意也

王者ら天の意を承て事に従ふ故に徳教を任
し之を刑小任せし刑は任し世に治る事なり
りさる事刑法の任して義をたす事あり
がことし政をたす者刑罰をたす事より文道
小順いさる者也故に先王の刑罰を治にせし先
王徳教を施し官を治る獨法成執の吏は任じ先
王意あり孔子の宣く教を治る事より
云唐政より施し徳教の四海に被り及んや
小の吏ありし事なり前漢書

一丘瓊山曰隋文帝刑法を治る盜のたを死や
其法嚴し刑を治る一錢を盜む者も死罪
に法ありて死に受す然しと盜むや肉を法に治るれは
唐の太宗隋を込し天子を保てた吏役を治

く一年貢を治る民の衣食を分事成也
せしり教年の内小盜たる門戸も治る事なり
道に遺る事ありてはひり若し事なり
し事刑を強く治る民を治る事なり其事の
得失ありし事なり

一丘瓊山曰舜王の官を命せし先王一者
教を施し事なりしは教を施し事なりし其
刑罰の事なり蓋し先王の身成事なり
は民に心せし事なり不吉なる事なり
は不獲己刑罰小なりし刑を施し事なり
を察し事なり行義補
一臯陶曰帝の徳を治る事なり

く何と云ふに於ては、律例箋叙 後悔と云ふは、
かゝるに於ては、律例箋叙

一旦立腹の儀に於て、人々を以て、
是非なく、罪ありし事、唐 罪ありし人、
多くさふち、唐 罪ありし人、
一度牢に入ると、唐 父母妻子二交、
たとく版下より、唐 何者、
何者、唐 食をたれ、
人々も、唐 囚は世嗣のたれ、
分して、唐 牢屋へ出入、
一者も、唐 常法、
律あり、唐 家人の入り、
吏あり、唐 四例、
毎月一度、唐 囚と牢、

妻子小に對面させ、
内いひしとして、
死罪より、
刑重自の恩、
役人多る者、
罪ありし人、
加ら政、
是は、
律例箋叙

一人牢へ入ると、
かゝるに、
老親めつ

て妻女の前はしりし少^{ツカ}さ女房はりりめ^{ツツ}子^{ツツ}の
親の事にもわらふ家^{ツツ}小^{ツツ}法を^{ツツ}牢^{ツツ}空の^{ツツ}み^{ツツ}は^{ツツ}さ
し^{ツツ}親^{ツツ}事^{ツツ}の^{ツツ}二^{ツツ}一^{ツツ}わ^{ツツ}し^{ツツ}り^{ツツ}或^{ツツ}は^{ツツ}一^{ツツ}人^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}
又^{ツツ}其^{ツツ}身^{ツツ}病^{ツツ}家^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}の^{ツツ}一^{ツツ}り^{ツツ}或^{ツツ}は^{ツツ}牢^{ツツ}空^{ツツ}に^{ツツ}此^{ツツ}比^{ツツ}入^{ツツ}
の^{ツツ}衣^{ツツ}敷^{ツツ}物^{ツツ}は^{ツツ}其^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}又^{ツツ}も^{ツツ}牢^{ツツ}空^{ツツ}の^{ツツ}一^{ツツ}人^{ツツ}
梶^{ツツ}腹^{ツツ}空^{ツツ}め^{ツツ}牢^{ツツ}空^{ツツ}の^{ツツ}役^{ツツ}人^{ツツ}を^{ツツ}た^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}入^{ツツ}し^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}
と^{ツツ}あ^{ツツ}た^{ツツ}其^{ツツ}人^{ツツ}を^{ツツ}死^{ツツ}す^{ツツ}る^{ツツ}事^{ツツ}と^{ツツ}役^{ツツ}人^{ツツ}た^{ツツ}ら
者^{ツツ}を^{ツツ}随^{ツツ}ふ^{ツツ}は^{ツツ}思^{ツツ}ひ^{ツツ}や^{ツツ}世^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}心^{ツツ}を^{ツツ}り^{ツツ}て^{ツツ}法^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}
と^{ツツ}み^{ツツ}ら^{ツツ}た^{ツツ}油^{ツツ}一^{ツツ}ん^{ツツ}や^{ツツ}燈^{ツツ}く^{ツツ}小^{ツツ}さ^{ツツ}ら^{ツツ}牢^{ツツ}空^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}
入^{ツツ}ら^{ツツ}し^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}牢^{ツツ}空^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}也^{ツツ}民^{ツツ}の^{ツツ}父^{ツツ}母^{ツツ}たる^{ツツ}者^{ツツ}
此^{ツツ}院^{ツツ}と^{ツツ}あ^{ツツ}る^{ツツ}一^{ツツ}圓^{ツツ}と^{ツツ}あ^{ツツ}る^{ツツ}の^{ツツ}役^{ツツ}人^{ツツ}は^{ツツ}少^{ツツ}く^{ツツ}
死^{ツツ}罪^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}牢^{ツツ}空^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}と^{ツツ}擧^{ツツ}げ^{ツツ}する^{ツツ}事^{ツツ}官^{ツツ}
入^{ツツ}し^{ツツ}官^{ツツ}へ^{ツツ}還^{ツツ}と^{ツツ}賊^{ツツ}め^{ツツ}ら^{ツツ}る^{ツツ}者^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}入^{ツツ}し^{ツツ}た^{ツツ}ら^{ツツ}

者^{ツツ}を^{ツツ}古^{ツツ}刑^{ツツ}も^{ツツ}外^{ツツ}に^{ツツ}徒^{ツツ}罪^{ツツ}と^{ツツ}い^{ツツ}は^{ツツ}る^{ツツ}有^{ツツ}力^{ツツ}罪^{ツツ}は^{ツツ}贖^{ツツ}
物^{ツツ}に^{ツツ}及^{ツツ}び^{ツツ}杖^{ツツ}一^{ツツ}百^{ツツ}と^{ツツ}下^{ツツ}贖^{ツツ}物^{ツツ}と^{ツツ}囚^{ツツ}人^{ツツ}の^{ツツ}
法^{ツツ}合^{ツツ}を^{ツツ}ま^{ツツ}す^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}小^{ツツ}法^{ツツ}を^{ツツ}て^{ツツ}其^{ツツ}身^{ツツ}を^{ツツ}長^{ツツ}く^{ツツ}
贖^{ツツ}物^{ツツ}と^{ツツ}あ^{ツツ}る^{ツツ}日^{ツツ}限^{ツツ}の^{ツツ}通^{ツツ}を^{ツツ}小^{ツツ}出^{ツツ}と^{ツツ}す^{ツツ}事^{ツツ}
律^{ツツ}例^{ツツ}箋^{ツツ}叙^{ツツ}

一^{ツツ}牢^{ツツ}入^{ツツ}倉^{ツツ}小^{ツツ}入^{ツツ}重^{ツツ}犯^{ツツ}人^{ツツ}を^{ツツ}帳^{ツツ}面^{ツツ}に^{ツツ}右^{ツツ}に^{ツツ}置^{ツツ}て^{ツツ}
そ^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}掌^{ツツ}り^{ツツ}重^{ツツ}役^{ツツ}人^{ツツ}古^{ツツ}に^{ツツ}帳^{ツツ}面^{ツツ}に^{ツツ}た^{ツツ}ら^{ツツ}る^{ツツ}事^{ツツ}
と^{ツツ}あ^{ツツ}る^{ツツ}日^{ツツ}小^{ツツ}牢^{ツツ}入^{ツツ}也^{ツツ}誰^{ツツ}の^{ツツ}案^{ツツ}日^{ツツ}に^{ツツ}倉^{ツツ}入^{ツツ}し^{ツツ}也^{ツツ}
と^{ツツ}あ^{ツツ}る^{ツツ}事^{ツツ}の^{ツツ}者^{ツツ}に^{ツツ}別^{ツツ}案^{ツツ}を^{ツツ}長^{ツツ}く^{ツツ}又^{ツツ}は^{ツツ}む^{ツツ}こ^{ツツ}さ
め^{ツツ}と^{ツツ}あ^{ツツ}る^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}油^{ツツ}と^{ツツ}あ^{ツツ}る^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}一^{ツツ}人^{ツツ}と^{ツツ}あ^{ツツ}る^{ツツ}事^{ツツ}
と^{ツツ}あ^{ツツ}る^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}牢^{ツツ}空^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}と^{ツツ}あ^{ツツ}る^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}牢^{ツツ}空^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}
下^{ツツ}役^{ツツ}人^{ツツ}の^{ツツ}役^{ツツ}者^{ツツ}を^{ツツ}牢^{ツツ}空^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}と^{ツツ}あ^{ツツ}る^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}牢^{ツツ}空^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}
た^{ツツ}ら^{ツツ}し^{ツツ}事^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}牢^{ツツ}空^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}と^{ツツ}あ^{ツツ}る^{ツツ}事^{ツツ}を^{ツツ}牢^{ツツ}空^{ツツ}の^{ツツ}事^{ツツ}

譯義凡例

一 漢文を譯し倭文より文長くならしむる
志し義のさうへかへは不も漢語をその内用ひ
て下に意を注す

一 譯文長く詞りやゝの事のみ多しなり律
の意を失しこすらさるる文章の工拙が
こさるゝなり

一 委細は吟味し参同を譯しめらるる
州と云ハ發落の字を譯しめらるる也
賊と云ハ
言小ハ
生賊と云ハ
一 題語は
凡ハ漢語と

一 官名の類もたゞ日めし
のこ定く本朝の制と
多しなり

一 本朝小をけひの法あり譯者を其學に
うて是て誤り多かり
凡ハ律例の本意は言ふに
し多し求ふ事とせらるる也

大明律例譯義目錄

名例律

五刑

十惡

八議

應議者犯罪

職官有犯

軍官有犯

文武官犯公罪

文武官犯私罪

應議者之父祖有犯

軍官軍人犯罪免徒流

犯罪得累減

卷第一

卷第二

以理去官

無官犯罪

除名當差

流囚家屬

常赦所不原

徒流人在道會赦

犯罪存留養親

工樂戶及婦人犯罪

徒流人又犯罪

老小廢疾收贖

犯罪時未老疾

給沒贓物

犯罪自首

二罪俱發以重論
犯_レ罪共逃
同僚犯_レ公罪
公事失錯
共犯_レ罪分首從
犯_レ罪事發在逃
親屬相為容隱
吏卒犯_レ死罪
處決叛軍
殺害軍人
在京犯_レ罪軍民
化外人有犯
本條別有罪名

加減罪例
稱棄輿車駕
稱期親祖父母
稱與同罪
稱監臨主守
稱日者以百刻
稱道士女冠
斷罪依新頒律
斷罪無正條
徒流遷徙地方

吏律

職制

選用軍職 卷第三

大臣專擅選官
文官不許封公侯
官員襲廕
濫設官吏
工舉非其人
舉用有過官吏
擅離職役
官員赴任過限
無故不朝參公座
擅勾屬官
官吏給由
共黨
交結近侍官員

上言大臣德政
公式

講讀律令
制書有違
棄敎制書印信
上書奏事犯諱
事應奏不奏
出使不復命
漏泄軍情大事
官文書稽程
照刷文卷
磨勘卷宗
同僚代判署文案

增減官文書
封掌印信
漏使印信
漏用鈔印
擅用調兵印信
信牌

戶律

戶役

脫漏戶口

卷第四

人戶以籍為定
私狃菴院及私度僧道
立嫡子違法
收留迷失子女

賦役不均

丁夫差遣不平

隱蔽差役

禁革主保里長

逃避差役

點差獄卒

私役部民夫匠

別籍異財

卑幼私擅用財

收養孤老

田宅

欺隱田糧

檢踏災傷田糧

切臣田土
盜賣田宅
任所置買田宅
典買田宅
盜耕種官民田
荒蕪田地
棄毀器物稼穡等
擅食田園瓜果
私借官車船
婚姻
男女婚姻
典雇妻女
妻妾失序

逐婚嫁女
居喪嫁娶
父母囚禁嫁娶
同姓為婚
尊卑為婚
娶親屬妻妾
娶部民婦女為妻妾
娶逃走婦女
強占良家妻女
娶樂人為妻妾
僧道娶妻
良賤為婚姻
蒙古色目人婚姻

出妻

嫁娶違律主婚媒人罪

倉庫

卷第五

鈔法

錢法

收糧還限

多收稅糧斛面

隱匿費用稅糧課物

攬納稅糧

虛出通関硃鈔

附餘錢糧私下補數

私借錢糧

私借官物

那移出納

庫秤雇役侵欺

冒支官糧

錢糧互相覺察

倉庫不覺被盜

守支錢糧及擅開官封

出納官物有違

收支留難

起斛金銀足色

損壞倉庫財物

轉解官物

擬斷賊罰不當

守掌在官財物

隱瞞入官家產

課程

鹽法

監臨勢要中鹽

沮壞鹽法

私茶

私鑿

匿稅

舶商匿貨

人戶虧充課程

錢債

違禁取利

費用受寄財產

卷第六

得遺失物

市廛

私充牙行埠頭

市司評物價

把持行市

私造斛斗秤尺

器用布絹不如法

禮律

祭祀

祭享

毀大祀立壇

致祭祀典神祇

歷代帝王陵寢

褻瀆神明
禁止師巫邪術

儀制

合和御藥

乘輿服御物

收藏禁書及私習天文

御賜衣物

失誤朝賀

失儀

奏對失序

朝見留難

上書陳言

見任官輒自立碑

禁止迎送

公差人員欺凌長官

服舍違式

僧道拜父母

失占天象

術士妄言禍福

匿父母夫喪

棄親之任

喪葬

卿飲酒禮

兵律

宮衛

大廟門擅入

宮殿門擅入
宿衛守衛人私自代替
從賀誓違
直行御道
內府工作人匠替役
宮殿造作罷不出
輒出入宮殿門
關防內使出入
向宮殿射箭
宿衛人兵杖
禁經斷人充宿衛
衝突儀仗
行宮營門

越城
門禁鎖鑰
懸滯關防牌面

軍政

卷第七

擅調官軍
申報軍務
飛報軍情
邊境申索軍需
失誤軍事
從征違期
軍人替役
主將不固守
縱軍虜掠

不操練軍士

激發良民

私賣戰馬

私賣軍器

毀棄軍器

私藏應禁軍器

縱放軍人歇役

公侯私役官軍

從征守禦官軍逃

優恤軍屬

夜禁

關津

私越冒度關津

詐冒給路引

關津留難

遞送逃軍妻女出城

盤詰甚細

私出外境及違禁下海

私役弓兵

廐牧

牧養畜產不如法

孳生馬匹

驗畜產不以實

養療瘦病畜產不如法

乘官畜脊破領穿

官馬不調習

宰殺馬牛
畜產咬踢人
隱匿孳生官畜產
私借官畜產
公使人等索借馬匹

郵驛

卷第八

遞送公文
敷取實封公文
舖舍損壞
私役舖兵
驛使替程
多乘驛馬
多支廩給

文書應給驛而不給
公事應行替程
占宿驛舍上房
乘驛馬齎私物
私役民夫擡轎
病故官家属還鄉
兼差轉雇寄人
乘官畜產車船附私物
私借驛馬

刑律

賊盜

謀反大逆
謀叛

造妖書妖言

盜大祀神御物

盜制書

盜印信

盜內府財物

盜城門鑰

盜軍器

盜園陵樹木

監守自盜倉庫錢糧

常人盜倉庫錢糧

強盜

劫囚

白晝搶奪

竊盜

盜牛馬畜產

盜田野穀麥

親屬相盜

恐嚇取財

詐欺官私取財

畧人畧賞人

發塚

夜無故入人家

盜賊窩主

共謀為盜

公取竊取皆為盜

起除刺字

人命

謀殺ス人

卷第九

謀殺制使及本管長官

謀殺祖父父母父母

殺死姦夫

謀殺故夫父母

殺一家三人

採生折割人

造畜蟲毒殺人

鬪毆及故殺人

屏去人服食

戲殺誤殺過失殺傷人

夫毆死有罪妻妾

殺子孫及奴婢圖賴人

弓箭傷人

車馬殺傷人

庸醫殺傷人

窩弓殺傷人

威逼人致死

尊長為人殺私和

同行知有謀害

闘毆

闘毆

保辜限期

宮内忿爭

皇家祖免以上親被毆

毆制使及本管長官
佐職統屬毆長官
上司官與統屬官相毆
九品以上官毆長官
拒毆追攝人
毆受業師
威力制縛人
良賤相毆
奴婢毆家長
妻妾毆夫
同姓親屬相毆
毆大功以下等長
毆期親尊長

罵詈

毆祖父父母
妻妾與夫親屬相毆
毆妻前夫之子
妻妾毆故夫父母
父祖被毆
罵人
罵制使及本管長官
佐職統屬罵長官
奴婢罵家長
罵尊長
罵祖父母父母
妻妾罵夫期親尊長

妻毒罵故夫父母

訴訟

越訴

卷第十

投匿名文書告人罪

告狀不受理

聽訟迴避

誣告

于名犯義

子孫違犯教令

見禁囚不得告舉他事

教唆詞訟

軍民約會詞訟

官吏詞訟家人訴

誣告充軍及遷徙

受贓

官吏受財

坐贓致罪

事後受財

有事以財請求

在官求索借貸人財物

家人求索

風憲官吏犯贓

因公擅科歛

私受公侯財物

剋留盜贓

官吏聽許財物

詐偽

詐偽制書
 詐傳詔旨
 對制上書詐不以實
 偽造印信曆日等
 偽造寶鈔
 私鑄銅錢
 詐假官
 詐稱內使等官
 近侍詐稱私行
 詐為瑞應
 詐病死傷避事
 詐教誘人犯法

犯姦

犯姦
 縱容妻妾犯姦
 親屬相姦
 誣執翁姦
 奴及雇工人姦家長妻
 姦部民妻女
 居喪及僧道犯姦
 良賤相姦
 官吏宿娼
 買良為娼
 雜犯
 折毀申明亭

夫一軍士病給醫藥

賭博

淹割火者

囑託公事

私和公事

失火

放火故燒人房屋

搬做雜劇

違令

不應為

捕亡

應捕人追捕罪人

罪人拒捕

獄囚脫監及反獄在逃

徒流人逃

暫留囚徒

主守不覺失囚

知情藏匿罪人

盜賊捕限

斷獄

囚應禁而不禁

故禁故勘平人

淹禁

陵虐罪囚

與囚金刃解脫

主守教囚反異

獄囚衣糧
功臣應禁親人入視
死囚令人自殺
老幼不拷訊
鞠獄停囚待對
依告狀鞫獄
原告人事畢不放回
獄囚誣指平人
官司出入人罪
辯明冤枉
有司決囚等第
檢驗屍傷不以實
決罰不如法

長官使人有犯
斷罪引律令
獄囚取服辯
赦前斷罪不當
聞有恩赦而故犯
徒囚不應役
婦人犯罪
死囚覆奏待報
斷罪不當
吏典代寫招草

工律

營造



虛費工力採取不堪用
造作不如法

冒破物料

帶造段匹

織造違禁龍鳳文段疋

造作過限

修理倉庫

有司官吏不佳公廨

河防

盜決河防

失時不修隄防

侵占街道

修理橋梁道路



大明律例譯義首卷終

大印

新

修

路

各

處

均

有

修

路

之

費

由

公

府

司

庫

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

河

防

司

庫

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

司

庫

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

支

取

用

之

費

由

公

府

